

令和 3 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的研究(開拓)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H06180・20K20272

研究課題名(和文)越境する画家、越境する作品世界：富山妙子の軌跡と芸術をめぐる歴史社会学的研究

研究課題名(英文) Research Project on Tomiyama Taeko's life and 'Narrative Art': Interdisciplinary Approaches to the Study of Historical Context, Aesthetics/Ethics and Artistic Practices

研究代表者

真鍋 祐子 (Manabe, Yuko)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00302258

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,090,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では富山妙子の画家人生と画業を「越境」という視座から捉え、まず画家自身の越境体験がその人生と作品をいかに構築したか、次にスライドや映画という複製可能なメディアに再編集された作品世界の越境性が韓国、タイ、フィリピンや中南米諸国等にまで及ぶ世界の歴史的動態にどう関連したか、という問いを立て、美術史、社会学、民俗学、歴史学等、学際的な共同研究を行った。その成果は延世大学校博物館・東京大学東洋文化研究所の共催による展覧会(2021年3月12日～6月30日)を通して社会的に還元された。延世大との共同作業を通じ、世界の構造的文脈における「不義と野蛮」の証言者という富山作品に一貫した意義が見出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2016～17年の「ろうそく革命」をへて、韓国の民主化運動史が日本でも注目されている。特に光州事件を扱った映画「タクシー運転手」(2017年)は、情報の媒介者としての外部者が韓国の民主化過程に与したことを伝えるもので、富山妙子もその重要な一人として再照明されるようになった。本研究の社会的意義は、まず、一国史を超えた社会運動史の可能性を拓いた点にある。また、富山とその作品の「越境」がもたらした、日本と韓国にとどまらない、欧米、中南米、東南アジアの国々を繋いだトランスナショナル連帯と、歴史的動態との連関性の一端が明らかとなり、民主化運動をめぐるグローバル・ヒストリーの可能性が開拓された点にある。

研究成果の概要(英文)：In this research project I have examined the life and work of artist Tomiyama Taeko(b.1921) from the perspective of "border crossings".First,I examined the artist's personal experiences of crossing borders and asked how they helped shape her life and work.Then I asked how the artist's works---reproduced in media such as slides and films and circulated across borders to Korea,Thailand,The Philippines and Latin America---intersect with global historical and geopolitical dynamics.I conducted interdisciplinary reserch with scholars from many fields including art history,sociology,ethnology and history.Collaboration between Yonsei University Museum in Seoul and this institute led to a major exhibition of Tomiyama Taeko's works(March 12,2021-June 30,2021). This constitutes an important social contribution and reaffirms the significance of Tomiyama Taeko who has consistently witnessed "injustice and barbarism" in the context of world history.

研究分野：社会学、文化人類学、地域研究

キーワード：富山妙子 民衆美術 ポストコロニアリル フェミニズム トランスナショナル連帯 越境 民主化運動

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の主題である画家・富山妙子(1921年～)は、12歳で父親の転勤に従って満洲へ渡り、18歳までをハルピンで過ごした。戦後は筑豊を主な拠点として炭鉱を描いたが、60年代初め、炭鉱離職者を追って移民先のブラジルに渡り、その後、チリ、ボリビア、メキシコ、キューバを旅しながら Narrative Art としての第三世界の芸術運動と出会う。70年代以降、韓国の民主化運動に共鳴し、金芝河の詩や光州民主化抗争に寄せて制作された一連の作品はキューバの版画、メキシコの壁画を用いた文化抵抗運動にインスパイアされたものだが、一方で80年の光州民主化運動を機に勃興した韓国民衆美術は、朝鮮自生の民衆文化を基盤としつつも、地下で流布した富山の作品と著作を介し、第三世界の芸術運動からも大きな影響を受けたとされる。このような軌跡は、富山自身がその生涯をかけて「世界史を肉体化する過程」でもあった。一方で富山作品は、国境を超えて波及した国と地域に対しても社会変革を意味づける普遍的思想性を内包していた。

富山妙子を主題とする研究は、ようやく1990年代頃から出始めるが、その多くは韓国民衆美術運動や慰安婦を画題とする80～90年代の社会参与的な作品群に関するもので、美術史分野での扱いは手薄であった。富山の画家人生そのものを扱う本研究は、そうした空白を埋めながら富山とその作品を美術史の中に位置づけ、同時にまた美術史を超えた学際的見地から、世界の歴史的動態におけるその社会的意義を問おうとするものである。

2. 研究の目的

本研究は寄贈された富山資料に基づき、以下の三つの目的により構成される。

(1) 「越境」を通じて富山の作品世界が構成される過程を明らかにする。

富山の画家人生と作品世界は、時間、空間、専門領域性という三つの「越境」に特徴づけられる。わけても富山の特異さは文学や音楽など他の芸術領域に通暁し、詩人、音楽家、演劇人等との協働を通じた芸術活動を展開してきた点にある。また、そうした創作へと動機づける画家自身の経験や思想に関する著作を多くもつ、極めて稀有な画家である。これらのテキストに基づき、国内外に富山の足跡をたどりつつ資料収集とインタビューによる客観的検証を行なう。

(2) 富山の作品世界がはらむメディア性とそれゆえの「越境」が、世界の歴史的動態といかにかわり、世界史の再構成にいかに関与したかを明らかにする。

キューバ、メキシコの反ヨーロッパの対抗文化としての芸術活動に触発された富山の作品と著作は、韓国民衆美術へと接続される一方で、韓国民衆美術を題材とした作品群はアメリカやドイツを巡回しながら、韓国の再帰的民主化に寄与した。また、これらを非合法に受容した東南アジア諸国の民主化をも支援した。そこでメディア・コミュニケーションとしての富山作品が、当該社会に対しいかなる「意味」を媒介したかを、実証研究を通して明らかにする。

(3) 上記を踏まえ、学際的視座からの従来にない作家論、作品論を展開し、世界の歴史的動態の中にその意味を位置づける。

本研究では美術史にとどまらず、歴史社会学、政治思想史、女性史、民俗学、社会情報学など、学際的なアプローチによって、富山妙子という主題を多角的・立体的に捉える。そうした作業を通じ、富山の作品世界がなぜ時代と国や地域、美術という領域を超えて普遍的意味を媒介しえたのかを、20世紀の歴史的動態という次元から明らかにする。その成果は論文やシンポジウムだ

けでなく、富山妙子展を企画し、キュレーションという形式を通して反映させたい。

3. 研究の方法

(1) 富山妙子の生育歴を端緒とする「越境」の体験が、それぞれの場所でどのような人や事象と出合わせ、そうした体験がどのように作品に結晶し、作品世界を構築してきたかに注目する。

富山の両親の故郷である淡路島、少女時代をすごした「満州国」、北海道や九州の炭鉱、ラテンアメリカ諸国、韓国、中東、インドなど、主に1970年代までの旅の経験について、文献調査とフィールドワークによって問いに向き合い、明らかにする。

(2) 1970年代以降、富山は自分の作品をコラージュし、詩、音楽、映像などと組み合わせたスライドや映画を複製可能なメディアとして制作し、国内外で巡回展を精力的に行った。一方、その作品イメージが人権団体やキリスト教団体などの国際的ネットワークに乗って拡散され、国内外で合法・非合法に受容された結果、韓国や東南アジア諸国の民主化運動を間接的に後押しした。70～80年代の「日韓連帯」運動をはじめとするトランスナショナル連帯において、富山作品が果たした役割とは何か、東京・ベルリン・メキシコシティ等の中継地にいながら富山作品と世界を結びつけたのはどのような人々だったかを明らかにする。

そこで、富山作品が越境した国内外でのフィールドワークを通し、それがどんな経路で受容され、当該社会の構造的な文脈に接続され、歴史的動態を促したか、富山作品がはらむ普遍的な主題としてのポストコロニアルとフェミニズムが当該社会でいかに意味づけられたかを見ていき、

トランスナショナル連帯の中継点としての東京、ベルリン、メキシコシティを取り上げ、その「場の力」の源泉を歴史学的に明らかにする。加えて晩年以降の重要な創作モチーフとなる淡路島についても、歴史学的、文化人類学的な手法によってその「場の力」を明らかにしていく。

(3) 以上を踏まえた研究成果の社会的還元として、2020年に光州民主化運動40周年を迎える韓国の研究機関と共催して、富山妙子の回顧展を開催する。また、韓国のキュレーターたちが富山作品をどう読解し、韓国近現代史の中に再文脈化するかを学ぶ機会とする。さらに本研究を遂行する途上で起こった香港民主化運動、ミャンマー国軍によるクーデターなど、世界情勢にも目配りすることで、富山の作品世界がはらむ普遍性を再照明する場を模索する。

4. 研究成果

(1) 2017年度

国際学術シンポジウム「越境する画家、越境する作品世界 トランスナショナル連帯における富山妙子の画業について」(2018年3月19日・東京大学東洋文化研究所)を開催し、本研究の趣旨と意義を内外にアピールした。まず、1970～80年代の「日韓連帯」をはじめ、韓国民主運動を支えたトランスナショナル連帯において富山の画業が果たした意義について李美淑が発表した後、イルゼ・レンツ(ルール大学ポーフム・名誉教授)が富山の作品世界をトランスナショナル連帯に連繋させた中継地としてのベルリンの歴史的素地とその役割について講演を行った。
(<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=FriMar231711392018>)

(2) 2018年度

1970年代にメキシコシティを中心に広がった金芝河救援運動に参加し、富山妙子のスライド作品「しばられた手の祈り」のスペイン語版制作に参加した朝鮮研究者、アルフレード・ロメロ

(メキシコ国立自治大学・教授)を招聘し、第一回・国際学術セミナー「ラテンアメリカと朝鮮半島 - 越境するアート、崔承喜と富山妙子をめぐって」(2018年7月6日・東京大学東洋文化研究所)を開催した。(<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuJul121528382018>)

2013年に富山にインタビューした未公開映像を所蔵する映像作家・岡村淳(在ブラジル)を招聘し、第二回・国際学術セミナー「富山妙子と炭鉱、ラテンアメリカへの旅 上野英信の光と影を照射する」(2018年11月10日)を開催した。本研究の目的と方法は、富山がまだ現役にもかかわらず、画家とその作品の「歴史化」を前提としており、現在進行形の画家の人生とその創作過程までは射程に収めていなかった。そこで岡村に本研究に加わってもらい、その欠落した部分を埋めることになった。本セミナーでは富山の日常生活に寄り添った最新作「狐とりハビリ」が上映された(<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuNov151347462018>)

(3) 2019年度

第三回・国際学術セミナー「時空をかける少女 富山妙子を撮る」(2019年11月30日)を開催。岡村を招聘して、富山自身が創作秘話を語る「光州事件発掘・三部作」(38分)「ラテンアメリカとの出会い」第一部「種まく画家」第二部「メキシコの祈り」(48分) 富山宅の屋根裏から発見された70年代韓国を描いたドローイングを素材とした「1970~73韓国 富山妙子」(6分)を上映した。(<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuDec191017282019>)

2017年の映画「タクシー運転手」公開を機に、光州事件の惨劇を世界に伝えた海外メディアの役割に関心を寄せる動きが、韓国のメディアや学会で起こってきた。「光州のピエタ」などの版画作品を介してこれに寄与した富山の存在もその対象となり、本研究ではこれらの取り組みに積極的に協力した。その結果、ドキュメンタリー「再び見る‘自由光州’ビデオ」(2019年5月17日、 <https://newstapa.org/article/OnB08>)が、ニュースサイト「ニュース・タパ」によって制作された。本研究では今後も、韓国の諸機関とそうした協力関係を維持することになった。

(4) 2020年度

2020年は光州民主化運動40周年、朝鮮戦争開戦70周年という節目の年にあたり、上記したような韓国諸機関との相互協力体制のもとで、研究の成果を発信することができた。

)大韓民国歴史博物館特別展「五月、その日が再び来れば」(5月13日~10月31日)に版画作品二点が展示され、ポスターや映像に富山作品のイメージが使用された。

)国立現代美術館特別展「見知らぬ戦争」(6月25日~11月8日)に油彩画二点を出品。

)ソウルの韓国映像資料院(5月16日~24日)、光州のアジア文化殿堂(同15日~24日)で開催された光州5・18民主化運動記念特別上映会で、富山妙子を中心となって制作した映画「自由光州」、および岡村淳の「光州事件発掘・三部作」(光州のみ)が上映された。

)光州MBCによるドキュメンタリー「名も残すことなく」二部作の制作に協力した。本作は同年9月に地域ドキュメンタリーTV部門で第47回韓国放送大賞を授与され、2021年5月に第54回ヒューストン国際映画祭のTVドキュメンタリー部門でプラチナ賞を受賞した。

・第一部「私たちが光州だった」(https://www.youtube.com/watch?v=Y2_xmjAPLjU)

・第二部「その後も長きにわたり」(https://www.youtube.com/watch?v=bWx5uMzGZ_o)

)大統領が列席する5・18民主化運動40周年記念式(5月18日)で上映された映像作品に、富山作品のイメージが使用された。(<https://vimeo.com/419806920>)

本研究の成果を発信する場として、韓国の研究機関との共催でシンポジウムを行った。いずれも日韓同時通訳の YouTube 動画が配信され、現在もフルバージョンで視聴することができる。

) 5・18 民主化運動記録館との共催による国際シンポジウム「越境する画家・富山妙子の生と芸術」(2020年11月13日、オンライン)。まず韓国初となるスライド「倒れたものへの祈禱」の上映会が行われ、次いで真鍋祐子(東京大学)、徐潤雅(立命館大学)、李美淑(立教大学)、鄭根埴(ソウル大学)が研究発表を行った。(<https://www.youtube.com/watch?v=f5ArHIIE-VA>)

) 延世大学校博物館との共催による国際シンポジウム「海の記憶へ 富山妙子の世界」(2021年3月12日、オンライン)が、同日開幕した展覧会開所式に続いて行われた。韓明淑(大韓民国第37代国務総理)、萩原弘子(大阪府立大学名誉教授)による基調講演と、申知瑛(延世大学)、徐潤雅(立命館大学)、高橋梓(延世大学)、高際裕哉(獨協大学)による研究発表が行われた。(<https://www.youtube.com/watch?v=s9KXZxyL58g>)

研究成果を発信する方法として、延世大学校博物館を会場として富山妙子回顧展「記憶の海へ 富山妙子の世界」を共催している(2021年3月12日~6月30日)。同展は中央日報、ハンギョレ、MBC ニュースなどで紹介されるなど、韓国国内で大きな反響を呼んでいる。そこでは富山の作品を「野蛮の記憶」の「証言者」と位置づけ、富山の画業は「人権と平和の尊厳」に貫かれているとして、テーマを「五つの記憶」-「戦争の記憶」「地の底の記憶」「詩人のための記憶」「光州の記憶」「フクシマの記憶」-に分け、時代に沿ってたどることができる展示構成となっている。

東京大学東洋文化研究所のジャーナル『東洋文化』101号(2021年3月)で特集号「世界史を越境する / 世界史に共振する 画家・富山妙子の作品世界」を組み、本科研に参加した研究者たちによる成果報告の場とした。代表者による序文のほか、1部「世界史を旅する画家」、2部「富山妙子をめぐる『場の力』」にそれぞれ六編の論文を収録した。研究分担者・協力者のほかに、イルゼ・レンツ(ルール大学ポーフム)、アルフレード・ロメロ(メキシコ国立自治大学)、李恩政(ベルリン自由大学)から寄稿された論文を収めた。

その他、国外諸機関との協力関係による成果発信として、以下の二つをあげておく。

) Feminist Artist として富山の作品を紹介している、研究協力者のローラ・ハインが運営するノースウェスタン大学のウェブサイト“Imagination without Borders”に関して、日本語・韓国語版の制作に協力した(<https://imaginationwithoutborders.northwestern.edu/>)。

) 富山が九州の炭鉱で出会ったドイツ派遣炭坑夫たちのその後の足取りをたどる調査を通して、数名の当事者たちと出会い、インタビューを行った。その成果をルール大学ポーフムのルール地方歴史館が運営するオーラル・ヒストリー・プロジェクトと共有し、インタビュー動画を編集してウェブサイト「鉱山の人」(<https://menschen-im-bergbau.de/menschen/>) 構築に協力している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 真鍋祐子	4. 巻 21-1
2. 論文標題 越境する画家・富山妙子の人生と作品世界ーポストコロナリズムとフェミニズムの交点から（韓国語）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民主主義と人権	6. 最初と最後の頁 77-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 真鍋祐子	4. 巻 851
2. 論文標題 光州をめぐる孤独と連帯 「社会的哀悼」へ向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rebecca Jennison	4. 巻 101
2. 論文標題 The Past Within Her: Tomiyama Taeko's Sorrows of War and the 'Postwar'----What a Woman Artist Saw	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小林宏道	4. 巻 101
2. 論文標題 美術家、富山妙子の軌跡と展開ー1990年代以降を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古川美佳	4. 巻 101
2. 論文標題 富山妙子が立ち続けた場所	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 223-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徐潤雅	4. 巻 101
2. 論文標題 富山妙子における「新しい芸術」の模索—敗戦後から1960年代までを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 31-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高際裕哉	4. 巻 101
2. 論文標題 富山妙子とラテンアメリカ—文献およびインタビューから読み取る植民地主義批判への目覚め	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 51-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李美淑	4. 巻 101
2. 論文標題 画家・富山妙子とトランスナショナルな連帯—越境する作品、共振する感覚	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 77-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 101
2. 論文標題 アートにみる植民地主義と女性の身体－富山妙子の中国・「満州国」・韓国との出会い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 107-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Laura Hein	4. 巻 101
2. 論文標題 The Power of Place: Pathways from Awaji Island	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 145-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子毅	4. 巻 101
2. 論文標題 淡路・富山妙子「解放」の原点－縄騒動、そして人形芝居	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 157-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李美淑	4. 巻 3
2. 論文標題 境界を越える対抗的公共圏とメディア－画家・富山妙子の「草の根の新しい芸術運動」を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会運動史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李美淑	4. 巻 -
2. 論文標題 境界を越える連帯と再帰的民主主義 - 画家・富山妙子の「脱帝国女性主義」認識と活動を中心に(韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 5・18と以後 - 発生、感応、拡張	6. 最初と最後の頁 171-208
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡洋	4. 巻 -
2. 論文標題 更新される「記録=記憶」に挑む デジタルアーカイブは可能か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 8ミリフィルムの旅	6. 最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉真以	4. 巻 106
2. 論文標題 五月の光州は民衆美術でどう表現されたのか? - 光州の作家たちが伝えること(韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 黄海文化	6. 最初と最後の頁 241-259
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lee, Misook	4. 巻 19(4)
2. 論文標題 The 'Japan-Korea Solidarity' activities in 1980: Analysis on documents about May 18 Gwangju Uprising and 'Save Kim Dae-jung Movement in Japanese civil society	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Democracy and Human Rights	6. 最初と最後の頁 59-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉真以	4. 巻 122
2. 論文標題 戦争の現実を告発した画家、浜田知明 初年兵哀歌 シリーズを中心に（韓国語論文）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本学報（韓国：ソウル）	6. 最初と最後の頁 305 - 331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rebecca Jennison	4. 巻 53
2. 論文標題 Prayer, Memory, Revelation-Tomiyama Taeko 's Socially Engaged Art	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都精華大学紀要	6. 最初と最後の頁 245 - 262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rebecca Jennison	4. 巻 45
2. 論文標題 Re-envisioning 'East Asia': minor transnationalism, Trans-Pacific dialogues and the visual arts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Amerasia Journal	6. 最初と最後の頁 381 - 385
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00447471.2019.1721661	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 真鍋祐子、金子毅	4. 巻 -
2. 論文標題 富山妙子の画家人生と作品世界ー 炭鉱 を軸として、ポストコロナリズムの視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度 アジア歴史研究報告書	6. 最初と最後の頁 109-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 24件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 富山妙子とはだれかーその人生と作品の世界
3. 学会等名 光州抗争40周年記念学術行事「越境する画家・富山妙子の生と芸術」5・18民主化運動記録館・東京大学東洋文化研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐潤雅
2. 発表標題 富山妙子の目に映った光州と韓国：1970～1980年代の作品変遷過程を中心に
3. 学会等名 光州抗争40周年記念学術行事「越境する画家・富山妙子の生と芸術」5・18民主化運動記録館・東京大学東洋文化研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 富山妙子の芸術運動とトランスナショナルな連帯ー金芝河の詩と光州5・18を中心に
3. 学会等名 光州抗争40周年記念学術行事「越境する画家・富山妙子の生と芸術」5・18民主化運動記録館・東京大学東洋文化研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐潤雅
2. 発表標題 画家・富山妙子と韓国民衆運動「倒れた者のための祈禱ー1980年5月光州」の制作背景
3. 学会等名 5・18民衆抗争40周年記念企画講演会「光州を描いた画家・富山妙子」韓国歴史問題研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐潤雅
2. 発表標題 画家の目に映った光州（クァンジュ）と韓国 富山妙子の1970～80年代の作品を中心に
3. 学会等名 ジェンダー史学会第17回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐潤雅
2. 発表標題 富山妙子が描いた韓国民主化運動 《朝鮮風景》から《光州のピエタ》まで
3. 学会等名 第7回「日韓連帯フォーラム」北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐潤雅
2. 発表標題 富山妙子が模索した「新しい芸術」とは何か 敗戦後から1960年代までを中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム「記憶の海へー富山妙子の世界」延世大学博物館・延世大学国学研究院・東京大学東洋文化研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高際裕哉
2. 発表標題 富山妙子とラテンアメリカ 文献およびインタビューから読み取る植民地主義批判への目覚め
3. 学会等名 国際シンポジウム「記憶の海へー富山妙子の世界」延世大学博物館・延世大学国学研究院・東京大学東洋文化研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉真以
2. 発表標題 満州から第三世界へー富山妙子の抵抗美術
3. 学会等名 5・18民衆構想40周年記念企画講演会「光州を描いた画家・富山妙子」韓国歴史問題研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川美佳
2. 発表標題 韓国民衆美術からみる5月光州
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター「比較日本文化部門主催国際ワークショップ」東アジア連続講演会第3回「80年5月光州事件と東アジア」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 5・18研究の新たな局面――国史を超えて
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター「比較日本文化部門主催国際ワークショップ」東アジア連続講演会第2回「80年5月光州事件と東アジア」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rebecca Jennison and Laura Hein
2. 発表標題 Oceans Connect: Tomiyama Taeko's Seas of Memory and Toxic Seas
3. 学会等名 Panel on Japanese Art in the Ecological Predicament: Collaborations in the Age of Crisis Proposed for EAJIS 26-29 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲葉真以
2. 発表標題 東アジア民衆美術の地平
3. 学会等名 6月民主抗争33周年記念学術シンポジウム（釜山民主公園）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉真以
2. 発表標題 光州民衆抗争と韓国民衆美術運動
3. 学会等名 朝鮮史研究会2021年2月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲葉真以
2. 発表標題 日本のルポルタージュ絵画と韓国民衆美術の比較
3. 学会等名 「生命展－その何かを探して」展講演（釜山民主公園）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 海とシャーマン：富山妙子、“魂振り”の絵にみる「海」のシンボリズム
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所：共同研究「環世界の人文学」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 記憶の海 富山妙子の世界
3. 学会等名 フェリス学院大学：学内共同研究「ポピュリズムとアート」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂元ひろ子・Rebecca Jennison・小林宏道
2. 発表標題 「何も信じられない時代に何を語る!!」富山妙子作品世界
3. 学会等名 富山妙子展覧会『What A Woman Artist Saw-絵と音楽が会って、時代を解く』ラウンドテーブルトーク
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川美佳
2. 発表標題 韓国民衆美術について
3. 学会等名 丸木美術館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 光州5.18からみるトランスナショナルな公共圏 『連帯』の再帰性をめぐって
3. 学会等名 国際シンポジウム・講演会「美麗島事件と光州事件からみる『アジア連帯』」北海道大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 5・18と『日韓連帯』活動の性格と意味（韓国語）
3. 学会等名 金大中大統領死去10周忌追悼学術大会「記録物でみた5・18と金大中」5・18民主化運動記録館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 トランスナショナルな公共圏の可能性－画家・富山妙子の越境する作品を事例に
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会（学習院大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 画家・富山妙子と「帰らぬ女たち」
3. 学会等名 ワークショップ「森崎和江の越境する連帯の思想－「からゆきさん」の近代と現代」（北海道大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rebecca Jennison
2. 発表標題 The Sea as a Stage, Islands as Network: Performative Practices in Recent Works by Tomiyama Taeko and Yamashiro Chikako
3. 学会等名 Performance Studies International Conference, Daegu, Korea（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuya Takagiwa
2. 発表標題 El arte de compromiso de Taeko TOMIYAMA (1921-): El encuentro de "Sisterhood" y America Latina y el despertar de la responsabilidad ante el colonialismo
3. 学会等名 Simposio Internacional: Mujeres por la igualdad, la liberación y el empoderamiento en Mexico y Japon, 1888-2018 (El Colegio de Mexico) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 身体表象とジェンダー：中国近現代の女性の痛み of 文化史～「満州」体験から韓国と出会う日本人画家富山妙子のアートにみる植民地主義と女性の身体
3. 学会等名 延世大学校近代韓国学研究所 人文韓国事業団 (HK+) 第二回海外学者招請フォーラム (韓国・原州市) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 富山妙子の絵画にみる女性の身体表象とシャーマニズム
3. 学会等名 成均館大学東アジア学術院・京都大学人文科学研究所・東京大学東洋文化研究所 合同シンポジウム「アジアの女性」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rebecca Jennison
2. 発表標題 Tomiyama Taeko's Revelation from the Sea:A Response to the Triple-disaster of March11,2011
3. 学会等名 Plenary Session on Diversity,Japanese Studies Association of Australia (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Lee, Misook
2. 発表標題 Transnational Solidarity Activism and the 'Rooted Cosmopolitans' in Postwar Japan: the case of the Japan-Korea solidarity movement of the 1970s and 80s
3. 学会等名 AAS-in-Asia (Association for Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 1970～80年代における「日韓連帯運動」と富山妙子 その越境性をめぐって
3. 学会等名 国際学術シンポジウム「越境する画家、越境する作品世界 トラン スナショナル連帯における富山妙子の画業について」東洋文化研究所、東京大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋祐子
2. 発表標題 富山妙子の画家人生と作品世界 - ポストコロニアリズムの視点から
3. 学会等名 ICUAアジア文化研究所・JFE21世紀財団共催シンポジウム「歴史の智慧をどう活かすか 21世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究」国際基督教大学
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 真鍋祐子 小林宏道 レベッカ・ジェニス	4. 発行年 2020年
2. 出版社 「富山妙子の芸術と思想」研究会	5. 総ページ数 65
3. 書名 記憶の海へー富山妙子の世界	

1. 著者名 李美淑	4. 発行年 2021年
2. 出版社 寿郎社	5. 総ページ数 95
3. 書名 『新たな時代の 日韓連帯 市民運動』玄武岩・金敬黙編著「1970年代から80年代の『日韓連帯運動』から考える『連帯』のあり方」	

1. 著者名 真鍋祐子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 『思想・文化空間としての日韓関係』佐野正人編「日韓関係を歪める言葉 - ねじ曲げられた『恨』」	

1. 著者名 Laura Hein	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Columbia University Press and Weatherhead East Asia Institute, Columbia University Imprint	5. 総ページ数 258
3. 書名 Post-Fascist Japan: Political Culture in Kamakura after World War II	

1. 著者名 李 美淑	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 「日韓連帯運動」の時代	

1. 著者名 古川美佳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 韓国の民衆美術－抵抗の美学と思想	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ノースウェスタン大学のウェブサイト"Imagination without Borders"の日本語版・韓国語版の制作に協力した。 https://imaginationwithoutborders.northwestern.edu/artists-jp/ 富山妙子の作品展示と解説、著作紹介、富山妙子研究の成果などを紹介するホームページ開設に協力した。 https://tomiymataeko.org/about_tomiya ルール大学（ポーフム）ルール地方歴史館のプロジェクトに対して制作協力した日本人元炭鉱夫のオーラル・ヒストリーは、完成後にウェブサイト「鉱山の人」にアップされる予定である。 https://menschen-im-bergbau.de/menschen/ 映像記録作家・岡村淳によって製作された富山妙子関連のドキュメンタリー映像作品は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ）インタビュー映像 『富山妙子さんに聴く 2013年』（143分、仮編集） ）シリーズ 富山妙子素描 『狐トリハビリ』（19分） 『光州の二人の恩人』（26分） 『コラージュを編む』（28分） 『戦争と原発』（28分） 『おじいさんは帰ってこなかった』（32分） 『ラテンアメリカとの出会い』 第一部：種まく画家（32分） 第二部：メキシコのいのり（19分） ）シリーズ 富山妙子 自作を絵解く 『光州事件発掘・三部作』 第一部：屋根裏の層（13分） 第二部：壁の記憶と天井（14分）
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 毅 (Kaneko Takeshi) (30383417)	聖学院大学・政治経済学部・准教授 (32412)	日本、ドイツでの文化人類学的調査
研究分担者	李 美淑 (Lee Misook) (40767711)	立教大学・グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター・助教 (32686)	韓国、ドイツ、アメリカ、タイ、フィリピン等におけるトランスナショナル連帯に関するメディア研究
研究分担者	藤岡 洋 (Fujioka Hiroshi) (80723014)	東京大学・東洋文化研究所・助教 (12601)	富山妙子の作品、資料のデータベース化

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高際 裕哉 (Takagiwa Yuya)		ラテンアメリカ地域研究
研究協力者	稲葉 真以 (Inaba Mai)		韓国美術史
研究協力者	ハイン ローラ (Hein Laura)		日本近現代史
研究協力者	古川 美佳 (Furukawa Mika)		韓国民衆美術史
研究協力者	小林 宏道 (Kobayashi Hiromichi)		美術史、キュレーター
研究協力者	徐 潤雅 (Seo Yuna)		富山妙子研究、日本美術史
連携研究者	坂元 ひろ子 (Sakamoto Hiroko) (30205778)	一橋大学・社会学研究科・名誉教授 (12613)	中国近現代政治思想史
連携研究者	李 静和 (Lee Chonghwa) (90286899)	成蹊大学・法学部・教授 (32629)	政治思想、文化の政治学

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携 研究者	レベッカ ジェニソン (Rebecca Jennison)	京都精華大学・人文学部・名誉教授	批評理論、ジェンダー論
	(30141485)	(34317)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 5・18民主化運動記録館・東京大学東洋文化研究所共催、国際シンポジウム「越境する画家・富山妙子の生と芸術」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 延世大学校博物館・東京大学東洋文化研究所共催、国際シンポジウム「海の記憶へ 富山妙子の世界」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 延世大学校博物館・東京大学東洋文化研究所共催、富山妙子展覧会「記憶の海へ 富山妙子の世界」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ルール大学（ポーfum）ルール地方歴史館オーラル・ヒストリー・プロジェクト「鉱山の人」、日本人元炭鉱夫のオーラル・ヒストリーの共同収集および映像の共同制作	開催年 2018年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ルール大学（ポーfum）ルール地方歴史館			
韓国	5・18民主化運動記録館	延世大学校博物館	延世大学校国学研究院	
韓国	民主化運動記念事業会			